



新潟―仙台便の就航を契機に、 地域間の交流や経済の活性化に 寄与する存在になることを 目指していきます。

Close-up Interview

クローズアップインタビュー

長谷川 政樹氏

はせがわ・まさき

トキエア株式会社 代表取締役

プロフィール

新潟県出身。
日本航空(株)入社後、新潟県庁、ジェットスター・ジャパン(株)、三菱重工(株)を経て、国内および外資系航空会社、航空機メーカーでの経験等を通じ、より身近な空の旅の実現や地域活性化への思いからトキエア(株)を設立。2023年3月、国内の独立系航空会社では14年ぶりの航空運送事業許可(AOC)を得た後、2024年1月より新潟―札幌(丘珠)便を初就航。同年4月には新潟―仙台便、同年9月には新潟―名古屋(中部)便を就航。

【概要】

トキエア株式会社

代表者 長谷川 政樹
事業内容 「夢をあきらめるな! 新しい挑戦の架け橋に」をコーポレートメッセージとして、航空運送事業を展開。
所在地 新潟県新潟市東区松浜町3710番地
新潟空港ターミナル1F
TEL 0570-023-237
HP https://tokiair.com

― 今年4月に、新潟空港と仙台空港を結ぶ定期便を就航されましたが、はじめに率直なご感想をお聞かせください。

トキエアは国内の航空業界において久しぶりの新規参入であり、独立系航空会社としては14年ぶり、25社目の航空会社となります。新潟空港を拠点に2024年1月31日に札幌丘珠空港へ就航し、4月26日には仙台空港に就航しております。私たちは長期間にわたる準備および航空局との調整を経て、この一歩を踏み出すことができました。

弊社のビジョンは、「夢をあきらめるな! 新しい挑戦の架け橋に」というコーポレートメッセージに象徴されています。これには、特に若者を中心に飛行機での移動をもっと気軽に、身近に感じてほしいという思いが込められています。現在、地方空港間の移動はまだハードルが高く、コストや時間の面で課題が多いのですが、弊社はそれを克服することで、地域間のつながりを強化し、新しい移動の選択肢を提供することを目指しています。

今年実現した仙台への就航は、新潟と仙台を結ぶ路線として26年ぶりの復活となりました。飛行時間はわずか35分。新幹線では2時間半、車だと4時間半かかる距離を、トキエアは短時間で結びます。料金は9000円からの設定で、特に日帰り旅行やビジネス利用を想定しています。しかしながら、就航当初は搭乗率が低く、地域住民の皆さまやビジネス層に

対するPR活動強化の必要性を痛感しており、課題解決に向けた対策を鋭意進めているところです。

― 定期便就航により、両地域の交流も活発になることが予想されますが、どのような点に期待しますか。

この新潟―仙台便は、単なる都市間の移動手段としてだけでなく、地域同士の交流や経済活性化に大きく寄与するものと期待しています。仙台と新潟はと

もに東北地方と北陸地方を代表する都市であり、ビジネスや観光、文化的な交流を通じて相互に発展できる可能性を秘めています。

ビジネス面では、新潟―仙台間のフライトが活用されることで、広域的なビジネスネットワークが構築されることが期待されます。例えば、仙台を拠点とする企業が新潟やその周辺地域への進出を図る際、この便が重要な役割を果たすでしょう。また、仙台を起点として岩手、青森、福島などの東北全域へのアクセス

も便利になるため、新潟の企業が仙台を拠点に東北全域へビジネスを展開することも考えられ、両都市間の経済活動がより活発になることを望んでいます。

観光面では、新潟の多彩な観光資源をぜひ、体験していただきたいと思っています。特に今年、世界文化遺産に登録された佐渡島の金山は、その歴史

的価値と観光地としての魅力が高まっており、仙台から日帰り旅行が可能なお得な観光スポットとして注目を集めています。そのほかにも、滞在型ワイナリーである「カーブドッチ」(新潟市西蒲区)や、温泉と露天

風呂を備えたりリゾート施設、さらに弥彦神社や日本海に沈む夕日など、新潟ならではの美しい自然と歴史を楽しむことができます。実は私自身、他県の方に教えていただいたことで、日本海に沈む夕日がこんなに美しかったのかと、最近になって改めて感心した次第です。太平洋側にお住まいの仙台や宮城の皆さまにも、ぜひ、ご覧いただきたいと思っています。

― 現時点では仙台便のほかに、札幌便と名古屋便が就航されていますが、今後、就航予定の路線や、新たに計画している取り組みなどの展望についてお聞かせください。

仙台便の就航に続き、9月には名古屋便が新たに就航しました。名古屋は中部地方の経済の中心地であり、新潟からのビジネスや観光の需要が見込まれています。今後の計画としては、さらに神戸への路線を開設する予定です。神戸は関西地方の玄関口であり、四国や瀬戸内地方へのアクセスも良好です。このように、トキエアは新潟から日本全国へとネットワークを広げ、地域間の移動をさらに活性化させることを目指しています。

また新潟―仙台便の利便性を広く伝えるためにも、今後は効果的なPR活動に注力していきます。現在、仙台や岩手、青森などの地域には、まだ十分にこの新しい航空路線の存在や利便性が浸透していないと感じています。特に、これまで新潟―



仙台―新潟間を結ぶ定期便は1日2往復、毎日運航している。

Close-up Interview

地域航空の利便性はもとより、 都市や空港の魅力も ともに発信していきます。



仙台間を移動していた方々は、おもに高速バスを利用していました。現在は減便したものの、コロナ禍以前は1日に8往復も運行していました。これは全国的に見ても非常に多く、このような中で飛行機の利用を促進するためには、バスや新幹線と比較したとき、飛行機の方がどれだけ速く、便利であるかということをしつかりとアピールしていく必要があります。

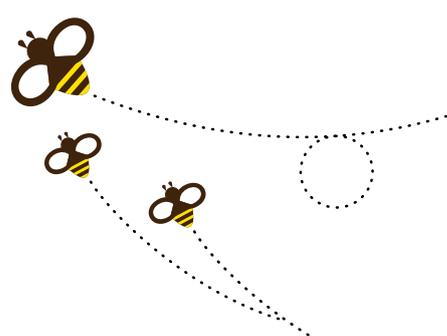
飛行機の魅力としては、移動時間が短いというだけではなく、空港での体験やサービスも挙げられます。新潟空港と仙台空港は、ともに地元の特産品を取り扱うショップやレストランが充実しており、飛行機の待ち時間を楽しみむことができます。これらの施設を生かし、空の旅そのものが特別な体験となるような工夫も求め

られます。弊社としては、これらの魅力を地域住民や観光客に広く伝えるため、メディアやSNSを活用した情報発信を強化していきます。さらに、地元の観光協会や企業との連携を深め、相互にメリットがある形でのプロモーション活動も展開していく予定です。

— 最後に、読者である仙台の地域企業の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

現在、観光分野においては、佐渡島へのチャーター便の計画を進めています。先ほども申しましたように、佐渡島は、金山をはじめ、美しい自然や歴史的な観光名所が多くあります。特に、観光のお客さまに人気のある温泉や伝統的な祭りなど、佐渡ならではの魅力が豊富にありますので、私たちはこれらのコンテンツを効果的に発信し、国内外からお客さまを呼び込みたいと考えています。

これからも私たちは、地方都市間を手軽に移動できる手段を提供する航空会社としての使命を大切にしていきたいと思えます。また飛行機の利用が広がることで、ビジネスや観光を通じた地域間の交流が促進され、新潟と仙台、さらには全国各地の活性化に貢献できるよう努めてまいります。今後もより多くの人々に弊社のサービスを利用していただき、空の旅の魅力を広めていきますので、どうぞよろしくお願いたします。



より良い環境をめざす。

青葉環境保全 Aoba

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)